

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイ トリトンⅡ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(看護師・機能訓練士)が常勤配置されており、医療的ケア児の受け入れや専門的なリハビリを提供できる体制が整っている。 今後は医療的ケア児の多様なニーズに対応できるよう、専門職間の連携強化や支援内容のさらなる充実が期待される。	看護師を常勤配置し医療的ケアが必要な児童の受け入れを行うとともに、機能訓練士による専門的なリハビリを日常的に実施している。	毎月第二土曜日に職員研修を実施しており、職員の質の向上につとめている。
2	周辺に学童クラブや他事業所、地域団体が多く、地域との交流や連携が図りやすい環境にある。 また、今後は交流の機会をさらに増やし、継続的な地域連携や多様な世代との関わりを深めていくことが期待される。	地域の学童クラブや事業所、自治会、老人会等と連携し、ハロウィンイベントなどを通して地域の子どもたちと交流する機会を設けている。	日常的な地域との関りが持てるよう「きづきまちやぐあ〜(事業所内売店)」を通して、他事業所などが買い物支援の一貫として来所し、交流を活発に行えるよう体制づくりを行っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発達支援スペースが狭く、利用児数の増加に伴い十分な活動空間の確保が難しい状況にある。 今後は活動内容の充実に向けて、空間の有効活用や環境整備の工夫が求められる。	発達支援スペースが限られているため、利用児が多い時間帯には窮屈さが生じている。 そのため、感覚遊びや運動など身体を使った活動に制限が出ていることが要因と考えられる。	事業所のテラスを活用し、事業所外での活動を取り入れ、感覚や運動など行っていく。 また、隣接する小規模多機能事業所をうまく活用し、発達支援スペースの確保を行っていく。
2	保護者同士の交流機会が少なく、父母会等の開催が十分に行えていない状況にある。 また、今後は保護者支援の充実に向けて、継続的な交流や情報共有の場の確保が期待される。	定期的な保護者連絡会や情報交換の機会を設ける体制が整っておらず、保護者同士の関わりが生まれにくいことが要因と考えられる。	保護者参加型のイベントを年2回以上企画し、イベントを通して保護者同士の関わりが持てるよう雰囲気づくりを行っていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 きつき児童デイトリトンⅡ

公表日 令和8年 5月 31日

利用児童数 令和8年 2月 28日

回収数 6

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2	2	1	1		テラスで活動したり、隣のきつきの家と連携して活動のスペース確保に努めています。また、次年度は新施設建設に向け本格的に始動していく予定です。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5			1		テラスで活動したり、隣のきつきの家と連携して活動のスペース確保に努めています。また、次年度は新施設建設に向け本格的に始動していく予定です。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	2		1		テラスで活動したり、隣のきつきの家と連携して活動のスペース確保に努めています。また、次年度は新施設建設に向け本格的に始動していく予定です。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	2				子どもたちが心地よく過ごせるよう、日々の清掃や整理整頓を行い、清潔で安全な環境づくりを行っています。今後も安心して利用いただけるよう環境整備に努めます。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5	1				子ども一人ひとりの特性や発達状況を理解し、日々の関わりの中で気づいたことを職員間で共有しながら支援を行っています。今後も研修や職員間の話し合いを通じて、専門性のある支援の提供に努めてまいります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5	1				事業所の支援プログラムに基づき、子どもの発達の特性に合わせた活動を行っています。今後も支援内容について職員間で活動を行いながら、より分かりやすく質の高い支援を行ってまいります。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					支援計画に当たっては、子どもたちの状況や、保護者との面談を踏まえて計画を作成しています。今後も保護者の皆さまと一緒に子どもたちの成長を考えながら支援計画を作成していきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	1				子どもに必要な支援内容を検討し、具体的な支援につながるよう計画づくりを行っています。今後も子どもたちの成長にあわせて内容の見直しを行っています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5	1				作成した支援計画については職員間で共有し、日々の活動の中で計画に沿った支援が行えるよう取り組んでまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	1				子どもたちが楽しみなさまざまな経験ができるよう、季節行事や制作活動、体を動かす活動などを取り入れています。今後も子どもたちの興味や発達に合わせた活動内容を検討しながら工夫してまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1		1		ハロウィンイベントやきつきの家でのまちやーくわー（売店）を通して地域のとの関わりを持てるよう機会を少しづつ増やして行きたいと考えています。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4	1		1		利用開始時には、運営内容や支援内容について出来るだけわかりやすく説明する心がけています。トリトンⅡ内に、一覧にしてファイリングしておりますので、何かご不明点があれば、スタッフへご相談ください。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					支援計画につきましては保護者の皆様にご確認いただきながら説明を行っています。今後もご理解いただけるよう丁寧な説明を行ってまいります。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	3				
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					連絡帳や送迎時の会話などを通じて、日々の子どもたちの様子をお伝えしています。今後も保護者の皆さまと情報共有を行いながら、子どもたちの成長と一緒に見守っていききたいと思います。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					保護者の皆さまが安心してご相談いただけるよう、面談や相談の機会を大切にしています。今後も気軽に相談いただける環境づくりを行ってまいります。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6					保護者の皆さまのお気持ちに寄り添いながら、子育ての不安や悩みについても一緒に考えていけるような関わりを大切にしています。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	3				
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	2				ご相談やご意見をいただいた際には、できるだけ早く対応できるよう職員間で共有しながら対応しています。今後も安心して相談していただける体制づくりに努めてまいります。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	2			子どもや保護者の皆さまとのコミュニケーションを大切にし、わかりやすい説明や丁寧な情報共有を心がけています。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	1		1	去年よりトリトンInstagramを運用しております。定期的にSNSでの情報発信をしており、子ども達の活動風景やイベントをお届けしています。また、自己評価の公表につきましてはホームページにて公表しています。合わせてご確認お願いします。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5				1	個人情報の取り扱いについては職員間で十分に確認を行い、適切な管理を徹底しています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5		1		事故防止や感染症対策などのマニュアルを整備し、職員間で確認を行っています。マニュアル等につきましてはファイリングして閲覧できますので、ご不明点がございましたら、職員へお問い合わせください。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1			地震や火災などを想定した避難訓練を定期的の実施しております。トリトンIIの第一避難場所はマンションAになっております。ご不明点がございましたら職員へお問い合わせください。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5				1	子どもたちの安全を第一に考え、事故防止に配慮しながら支援を行っています。トリトンIIでは安全計画を作成し事業所ないで保管しております。ご覧になりたい方は職員へお問い合わせください。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5				1	万が一事故や怪我があった場合には速やかに保護者へご連絡し、状況を丁寧にお伝えするとともに再発防止に努めてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きつき児童デイトリトンⅡ		公表日		令和 8年 5月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	・活動内容に応じて机配置や動線を都度変更し、集団活動と個別活動のスペースを分けている ・近隣施設（きつきの家等）と連携し、活動場所の分散を図っている	・室内スペースに限りがあり、活動内容によっては十分な距離確保が難しい ・今後は新施設整備に向け、より構造化された空間設計（静と動の分離）を検討する必要がある	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	・法令基準を満たした人員配置を行い、児童の特性や人数に応じて役割分担を明確にしている	・支援体制（誰がどの子を見ているか）の見える化が不足しているため、伝え方の工夫が必要	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・特性に応じて声かけや視覚的提示（絵・表示）を活用している	・視覚支援（スケジュール掲示、ルール表示など）が十分でない場面がある より明確なゾーニング（落ち着く場所/活動する場所）を整備する必要がある	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	・必要に応じて静かなスペースへ誘導し、クールダウンできる環境を確保している	・専用の個別スペースが常時確保されていない	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		・日々のミーティングや記録をもとに支援内容の振り返りを実施している ・モニタリング結果を職員間で共有し、支援改善に反映している	・振り返り内容が記録として十分に残っていない場合がある ・改善内容の「見える化（記録化）」を強化する必要がある	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年1回以上の保護者評価を実施し、結果を毎月の定例会で共有している	評価結果に対する改善策と実施状況を文書化し、保護者へフィードバックする仕組みを構築する必要がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議で日々の支援について意見交換を行い、経験の浅い職員も発言しやすい環境づくりを行っている。	発言する職員が偏る傾向があるため、全員が均等に意見を出せる仕組みづくりが必要である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		自己評価を実施し結果を共有することで、支援の質向上に向けた改善点を明確にしている。	第三者による客観的評価の導入が十分であり、外部視点を取り入れた改善が必要である。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		虐待防止や感染対策などの研修を実施し、職員の知識向上に努めている。外部研修にも参加している。	研修内容が現場で十分活かされていない場合があるため、共有や振り返りの仕組み強化が必要である。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			専門的な表現が多くなる傾向があり、保護者にとって分かりやすい言葉への言い換えが必要である。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		聞き取りや日々の観察をもとに、運動面・認知面・コミュニケーション面など多角的にアセスメントを実施している。	職員ごとに評価の視点異なるため、共通の評価基準を整備し客観性を高める必要がある。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童指導員や看護師など複数職種でケース会議を行い、児童の状況を共有しながら支援計画を作成している。	会議時間の確保が難しく、十分な検討ができない場合があるため、計画的な時間設定が必要である。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成した支援計画は職員間で共有し、朝礼や記録を通じて内容を確認しながら統一した支援を行っている。	非常勤職員への情報共有が不十分な場合があり、全職員への確実な周知方法の検討が必要である。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			標準化された評価ツールの活用が十分でないため、客観的な評価方法の導入が必要である。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		本人支援・家族支援・移行支援を意識し、感覚遊びや生活動作訓練、学校連携など多面的な支援を計画に反映している。	地域支援や地域連携の具体的な取り組みが少なく、今後の強化が必要である。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動プログラムは複数の職員で検討し、子どもの発達段階や興味に応じた内容となるよう工夫している。	活動内容が似通うことがあるため、新しいアイデアの導入や情報収集が必要である。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節行事や外出活動、感覚遊びなどを取り入れ、子どもが楽しみながら多様な経験を積めるようにしている。	活動の幅が限られる場合があるため、新しい活動や地域資源の活用が求められる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別活動と集団活動を組み合わせ、子どもの特性に応じて無理のない形で社会性や協調性を育てている。	時間配分や活動内容のバランス調整が難しく、より計画的な支援が必要である。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前にミーティングを行い、その日の体調や注意点、役割分担を確認し、安全で統一した支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	・その日の支援内容や児童の様子について職員間で共有している ・気になるケースについては個別に時間を設けて検討している	・毎日の振り返りを確実に実施する仕組み（記録様式等）が必要
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援記録を当日中に作成し、子どもの様子や対応内容を詳細に残すよう努めている。	記録内容にばらつきがあるため、記録様式や記入基準の統一が必要である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行い、子どもの成長や課題の変化に応じて支援計画の見直しを行っている。	緊急時の見直しが遅れる場合があるため、柔軟に対応できる体制が必要である。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		遊びや生活訓練、社会体験を組み合わせ、バランスよく支援を提供している。	活動の整理や体系化が十分でなく、支援内容の見える化が必要である。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		複数の活動から子ども自身が選択できる機会を設け、自己決定力の向上を図っている。	提示できる選択肢が限られる場合があり、活動の幅を広げる必要がある。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		サービス担当者会議に参加し、関係機関と情報共有を行いながら支援の方向性を確認している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		医療機関や相談支援事業所と連携し、子どもの健康状態や支援内容について情報共有を行っている。	情報共有のタイミングや方法に課題があり、より迅速な連携体制の構築が必要である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校と送迎時のやり取りを通じて情報共有を行い、支援の一貫性を保っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1	・必要に応じて進路先へ情報提供を行っている	・対象児童に限られ、実施が体系化されていない ・移行支援の手順や様式を整備する必要がある
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3	・必要に応じて相談できる関係性は構築している	・定期的な連携や研修機会が不足している ・外部専門職からの助言を受ける機会を増やす必要がある
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	地域の公園や外出活動を通じて、他児との関わりや社会経験を積む機会を提供している。	地域の児童クラブ等との継続的な交流機会が少なく、計画的な交流機会の確保が課題である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	・情報収集として資料確認等は行っている	・実際の参加機会が少ない ・地域ネットワークへの積極的な関与が必要
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や連絡帳を通じて日々の様子を保護者に伝え、家庭との情報共有を図っている。	情報共有の内容や方法の統一が必要である。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4		・ペアレントトレーニング等の体系的な家族支援が未実施 ・保護者向け研修や勉強会の開催が必要
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	・契約時に書面を用いて説明を行っている ・質問には個別に対応している	・理解度に差がある ・説明内容をより簡潔・視覚的にする必要はある
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1	面談時に保護者や子どもの意向を確認し、支援計画に反映するよう努めている。	子どもの意思表出が難しい場合の支援が十分でなく、意思確認方法の工夫が必要である。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		支援計画の内容を説明し、保護者の同意を得た上で支援を開始している。	内容が専門的で分かりにくい場合があり、より具体的に理解しやすい説明が必要である。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	保護者からの相談に随時対応し、必要に応じて面談や助言を行い、安心して利用できる環境を整えている。	相談対応の時間確保が難しい場合があり、対応体制の強化が求められる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	3	・行事等で交流の機会を設けている	・定期的な開催ができていない ・保護者同士が関わる場の仕組み作りが必要

説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情受付窓口を設置し、迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。	保護者への周知が十分でないため、分かりやすい掲示や説明の強化が必要である。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・SNSや通信で活動の様子を発信している ・写真等を活用し、活動内容が伝わるよう工夫している	・閲覧状況にばらつきがある ・更新頻度や周知方法の改善が必要
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		取り扱いルールを職員間で共有して適切に管理している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		絵カードやジェスチャーを活用し、子どもの特性に応じた意思疎通支援を行っている。	支援方法が職員によって異なるため、統一した対応方法の整備が必要である。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	地域行事への参加や外出活動を通じて、地域との関わりを持つ機会を設けている。	継続的な地域交流が少なく、より積極的な取り組みが必要である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		事故防止や感染症対応などのマニュアルを整備し、訓練を実施して安全確保に努めている。	実践的な訓練が不足しているため、より現場を想定した訓練が必要である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し、定期的に避難訓練を実施して災害時に備えている。	想定する災害の種類が限定的であり、多様なケースへの対応強化が必要である。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		事前に服薬や既往歴、発作の有無などを確認し、職員間で共有して安全に配慮している。	情報更新が遅れる場合があるため、定期的な確認体制の強化が必要である。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		食物アレルギーがある児童に関しては職員内での情報共有を行い、対象となる食物を除去し、カルテ内へ掲示している。	緊急時対応の訓練が十分でないため、実践的な訓練の実施が必要である。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、研修や日々の確認を通じて事故防止に努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全に関する取り組みを保護者へ説明し、家庭との連携を図りながら安全確保に努めている。	分かりやすい説明方法の工夫が必要である。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット事例を記録・共有し、再発防止に向けた対策を検討している。	分析が十分でない場合があり、原因の深掘りと具体的対策の強化が必要である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止研修を実施し、職員の意識向上と適切な支援の徹底に努めている。	研修内容が日常支援に十分反映されていないため、実践への落とし込みが必要である。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束については事前に保護者へ説明し同意を得た上で、計画に明記し適切に対応している。	身体拘束に頼らない支援方法の検討や代替手段の充実に今後の課題である。	